

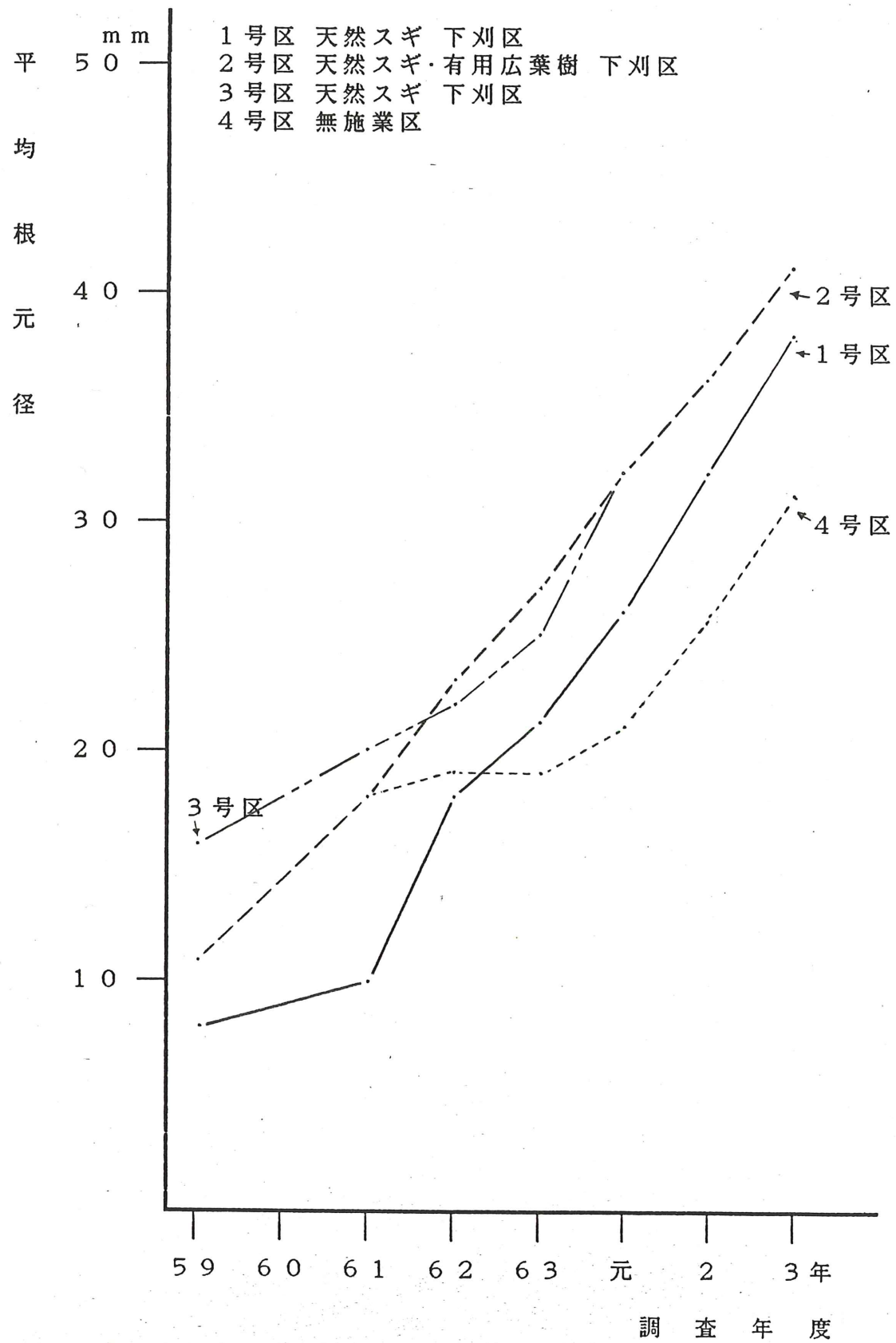
技術開発完了報告

秋田営林局
藤里営林署

課題名		天然林の保育作業			
指示・自主 区分	局自主	開発 期間	S.57~H.3	担当	経営課 収穫係
目 標	天然秋田杉を主とする林分の皆伐跡地に生立する天然秋田杉稚幼樹の成林及び成長を促進させるための保育作業方法を検討し、今後における天然秋田杉の天然更新施業確立のための基礎資料とするため。				
結 果	標準区は標高280m、方位NW、主風方向SW、積雪量250cmである。 下刈区と無施業区での成長量は、根元径については差はないが、樹高については今のところ下刈区の方が高くなっている。			技術開発経費内訳	
				<人工> 千円 物件費 役務費 人件費 基 職< > その他< > 合計	
開発経過と調査内容					
1 試験地の設定					
(1) 設定年月 昭和59年11月					
(2) 設定場所 大座崩沢国有林53林班ほ6小班					
(3) 設定面積 0.46HA					
ア 天然秋田杉区 0.12ha 1号区					
イ 〃 〃 〃 0.10ha 2号区					
ウ 天然秋田杉及び有用広葉樹区 0.13ha 3号区					
エ 無施業区 0.11ha 4号区					

2 実行内容	
S. 58	下刈
S. 59	〃 試験地細分区画、番号札表示、毎木調査
S. 60	〃 標示板・境界標設置
S. 61	〃 毎木調査
S. 62	〃 〃
S. 63	〃 〃
H. 元	〃 〃
H. 2	〃 〃
H. 3	〃 〃
3 成長量比較	
平成4年4月2日付け4藤第338号で実施報告済みである。	
評価及び普及指導	
下刈区、無施業区とも根元径にはほとんど差はないが、樹高成長は下刈り終了後の元年度あたりから旺盛となって無施業区より超している。 今後もこのような姿で成長が見込まれることから一定の成果があったと考察されるので当技術開発の完了報告とする。 なお、天然林施業においても保育作業の拡大が図られているが、手入れをすることによる成長促進と確実な更新に向け、今後においても積極的に実施する必要がある。	

天然スギ根元径成長量比較



天然スギ樹高成長量比較

